ICT教育

情報通信技術の急速な進歩は、私たちの生活に大きな変革をもたらそうとしています。これからの時代を生きる子供たちには、コンピュータやアプリケーションを便利に「使う」だけでなく、自らそれを「創り出す」力が求められます。

県では、情報化社会で活躍できる人材を育成するため学年に応じた県独自のプログラミング教育のカリキュラムを構築します。

今年度よりモデル校での授業を実施し、2019年度からは県内すべての小・中・高等学校および特別支援学校においてプログラミング教育を実施します。

また、中学校、高等学校のパソコンクラブに県内ICT企業などから指導者を派遣し、より高度な活用能力の習得を支援することで、高度なプログラミング教育を推進します。

国際人の育成

グローバル社会において活躍できる語学力・コミュニケーション能力・国際理解の精神などを身につけた人材を育成するため、小・中・高等学校および特別支援学校教員の英語指導力・英語力を高める研修を充実し、指導方法の工夫・改善に取り組んでいます。さらに、高等学校においては、英語で自分の意見や考えを論理的に発信できるような機会の充実を図っています。

アジア・オセアニア高校生フォーラム

アジア・オセアニアの国・地域の高校生と世界共通の諸課題や観光・文化などについて意見を交わすとともに、さまざまなプログラムで国際交流を深めています。

2017年開会式の様子

就職支援

県内企業への就職を促進するため、応募前に事業所で仕事の説明を受けたり、職場の様子を自分で確かめたりするなど、就職希望者と企業とのマッチングを図っています。また、就職を希望する高校3年生には、100社を超える県内企業の合同企業説明会を開催するとともに、和歌山で就職することのメリットや県内企業の情報を掲載した「わかやま就職ガイド」を配布しています。

郷土教育

ふるさと和歌山への興味・関心を高め、ふるさとの学習に取り組めるように、和歌山県版ふるさと教科書「わかやま何でも帳」を作成しています。毎年、新中学一年生全員に配布し、県内すべての中学校および特別支援学校中学部でふるさと教育に取り組むとともに学んだ知識を試す「わかやまふるさと検定」を新たに実施します。

道徳教育

本県にゆかりのある先人の生き方や近年社会問題になっているネット問題、いじめなどを題材に取り上げた和歌山県独自の道徳教科書である「心のとびら」、「希望へのかけはし」を活用し、子供たちの規範意識や人を思いやる心などを育んでいます。

いじめ根絶、不登校解消に向けて

いじめ根絶・不登校解消に向けて、「未然防止」、「早期発見・早期対応」の取組を進めています。学校は、児童会・生徒会の活性化やわかる授業づくりに取り組み、子供たちの自己肯定感を高めることなどにより「未然防止」を図るとともに、定期的にアンケート調査や面談などを行い、子供たちの悩み・不安の「早期発見・早期対応」に取り組んで、その解決に努めています。また、教員が「早期発見・早期対応」できるよう、マニュアルや手引きを活用した教員の研修を実施しています。

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどとの相談体制や学校と関係機関が連携して子供を支援する体制の充実にも取り組んでいます。

地域とともに育む

きのくにコミュニティスクール

～地域が人を育み、人が地域をつくる～

「きのくにコミュニティスクール」とは、学校や家庭・地域が抱える課題を解決するために、学校運営協議会を設置し、学校と家庭・地域が連携して学校づくりを進める仕組みで、県では、2020年3月までに県内すべての公立学校で導入することをめざしています。

学校運営協議会では、「学校」から「家庭・地域」へ、「家庭・地域」から「学校」への互いの要請に応えながら子供の育ちについて協議することができ、例えば、子供たちが交通ルールを守り安全な自転車の乗り方ができるように、保護者も巻き込み、地域全体でキャンペーンをしてはどうかというような話し合いも進められています。

家庭・地域との連携を深めることで、確かな学力の定着や、いじめ・不登校などの課題解決が一層進み、また、学校が地域活性化の中心的な存在になれるよう取り組んでいきます。

※2019年3月までに県内の公立学校392校中276校で導入予定

地域から学校へ

紀の川市立 安楽川小学校　学校運営協議会 会長　竹中 利昭さん

学校運営協議会の中で、送迎の車がスピードを出して危ないという意見がでて、注意喚起の看板を作ろうということになりました。意見を出し合い、協力し合ってできた学校運営協議会の初仕事となるものです。

今まで学校にお願いしていた課題を自主的に取り組めるところが良さだと思います。

さらに発展させた取り組みも話し合っているところです。学校運営協議会の活動を通して子供たちだけでなく地域の方々との輪も広がっていると感じています。

学校から地域へ

県立高等学校での取組

すべての高等学校に学校運営協議会が設置され、「特色ある学校づくり」について学校と家庭・地域がそれぞれの視点から活発に議論を行っています。

南部高等学校では、地元食材である梅を使用した新たなレシピの開発や生徒考案の食べ物を地元イベントで販売するなど地域との連携を進めています。また、笠田高等学校においては、授業で習得したパソコンの知識や技能を地域の人に教えることで、自らの能力向上と地域貢献を図っています。

このように、各学校において、その学校の特色を生かした活動がはじまっています。

コミュニティ・スクールの全国フォーラムが和歌山で開催されます

誰でも参加できますので、ぜひご参加ください！

名称：平成30年度地域とともにある学校づくり推進フォーラム

日時：8月23日(木)10:00～16:30(受付9:00～)

場所：県民文化会館(和歌山市)

申込：文部科学省のホームページ「受付フォーム」より申し込み

コミュニティ・スクール